

| 重点取組分野 | 平成28年度 | | 総括 |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 確かな学力 | 「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「自分の考えをもち 学び合う子」を設定し、授業改善を図る。重点研究では、生活科・社会科を取り上げ、地域の材を活かした、問題解決型の学習について研究を進め、子どもの思考の流れを見とって指導計画を立て、思考力を伸ばしていくようにする。 | ・KCSの協力を得て、地域の材を開発し、学び合う子供を目指して授業改善を進めた。重点研究では、問題解決的な学習を計画し、子供は材に対して自分なりの考えを持って学習に臨み、表現しようとする姿勢を持つようになっていた。より、子どもの思考に沿った問題を作っていくように心がけ、思考力を深めていくようにしていきたい。 | B |
| 豊かな心 | ・子どもの実態をもとに、道徳の授業や人権教育を大切に、全学級道徳授業公開を年1回実施する。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取組を充実させ、異学年交流の日常化を図ったり、KCSや学援隊などの地域の方々と交流し、感謝の気持ちがもてるようにしたりする。 | ・道徳、人権教育に関して、年1回の公開授業や人権週間にあわせた各学年の取り組みを行った。道徳に関して、懇談会で話題にする内容が明確化されていなかった。 ・異学年交流やKCSによる授業ボランティアについて、意図的・計画的に行うことができた。 | B |
| 健やかな体 | ・体力向上一校1実践として行う長縄集会に向けて、全学級で意図的・計画的に取組み、体力の向上に励む。 ・小中合同学校保健委員会を一層充実する工夫をし、けがの防止に対する意識を高める。 | ・長縄集会を年2回行うことで、目標をもって意図的に取り組む姿が見られた。自分たちの記録の伸びを重視できるよう、学年で目標を設定することなども考えていきたい。 ・中学生と協力し、どんな時にけががおこりやすいか予測したり、けがの手当てを学ぶことで、けがの予防に対する意識が高まった。 | B |
| 児童指導 | ・学校スタンダードを徹底し、さらなる改善を図る。 ・生活目標をあいさつと整理整頓に選択・特化し、すすんで関わろうとする意識を高める。 | ・学校スタンダードについて年度当初、全職員で共通理解を図った。その後も運営部会議毎に、児童の実態に応じて改善を行った。 ・朝会や学校放送を通して、児童からの発信や振り返りが行われた。 | B |
| 地域連携 | ・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・学校支援ボランティア募集に係る広報活動とボランティアバンクの作成 ・学校支援活動の実施・学習支援活動 ・校内環境美化支援活動・図書館支援活動 | ・地域の方々の専門的な知識や技能を生かした安全で、内容豊かな活動や授業が展開された。 ・学校や子どもの様子を地域の方々に理解してもらえ、開かれた学校になり、学校と地域を結びつかけとなった。 | A |
| 特別支援 | ・自閉症に関する理解を深め、安心・安全に学習できるように研修を行う。 ・全学年に特別支援コーディネーターを配置できるように、コーディネーター研修への参加者を増やす。 | ・今年度は、自閉症を理解を深める研修として「障害者差別解消法施行に伴う合理的配慮」について研修を行った。 ・講師からは、実践的な話もたくさん例をあげて話していただき、対応の仕方にも参考になった。 | B |
| 国際交流 | ・インターネットを通じてのリアルタイムでオーストラリアの児童とやり取りをして、外国語を使うことへの意欲を高める。 ・ホームステイ体験事業を活用し、現地での交流を経験した児童の体験を全校で共有化する。 | ・5・6年はインターネットを使ったテレビ電話の交流を実施し、外国語を使って交流する体験を通して意欲の向上が見られた。 ・交流を全校として行うことができなかったため、国際交流への意識に偏りがあるので、全校での取組みへと広げる課題が残った。 | C |
| 特別支援 | | | |
| 人材育成・組織運営 | ・主幹教諭、教務主任、学年主任、各種委員会の長、研究部主任などのリーダーが学校運営の担い手として組織的に位置付け、機動的に解決できる学校運営組織を作る。 ・メンターチーム「小田義塾」を中心に据え、教職員のキャリアステージに応じた人材育成やOJTをし、組織と個人それぞれの目標管理システムを機能させる。 | ・週に一回、主幹会を開き、報告・相談・連絡をしてきた。運営部や学年の経営に携わり、機能的に学校運営ができるよう、努めてきた。 ・A研やB研の長を一人一役とし、2年目、3年目の教員にも責任のある仕事を任せることで人材育成をしてきた。 ・メンター研修では外部から講師を招き、多彩な研修を行った。 | B |
| ブロック内相互評価後の気付き | ●中学校見学やアート展の展示など、6年生と中学生との交流をより多くもつことで、中学校進学への不安が減り、進学への見通しがもてるようになった。 ●小中連携が保護者や地域にも高く評価されている。(主に学校保健委員会や運動会での活躍) ●交流活動を取り入れることで、職員同士の良好な関係性が築かれてきている。 | | |
| 学校関係者評価 | ・本当に子どもがのびのびと生活できている学校でよいと思う。孫が入るのが楽しみ。 ・若い教員をメンターチームなどで育成することが大事である。 ・6年生の社会の授業がすばらしかった。学習問題に対する取り組みも、授業の展開もよかった。 ・学習内容が進化している。お父さん方も教育に参加してほしい。 | | |
| 学校経営中期取組目標振り返り | 上述した通りの取組と結果であったが、特に地域連携では5月にKCS(小田小学校地域コラボレーションシステム)を立ち上げ、多くの保護者・地域の皆さんの学習支援、環境整備支援等をいただくことができた。学校行事や地域行事、防災拠点活動などでも連携することができ、開かれた学校としての認知を得ることができた。また、メンター研修や学年研究会、重点研究会より充実させ、同僚性を生かした人材育成に努めてきた。更に、特別支援体制の強化にも努め、配慮を要する児童への理解を深め、支援を充実させることができた。 | | |

| 重点取組分野 | 平成29年度 | | 総括 |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 確かな学力 | 「開かれた楽しい授業」に向け、「自分の考えをもち、学び合う子」と研究テーマを設定し、授業改善を図る。重点研究では、算数科を取り上げ、基礎的な内容を大切にしつつも、自分の考えを表現し合い、課題に対して、多角的に考えていくこととする子供を育てたい。お互いの考えをもつて、それぞれの思考力を伸ばしていくようにする。 | ・重点研である算数科のみならず、どの教科においても、「自分の考えをもつこと」「考えを伝え合い自分の考えを深めること」のできる学習場面を設定するようにした。基礎基本の力を元に戻すべく表現したりすることを通して、学びを深めることができた。 ・自己の学習をふりかえり、次の活動に生かしていく姿勢を育てていきたい。 | B |
| 豊かな心 | ・子どもの実態をもとに、道徳の授業や人権教育を大切に、全学級道徳授業公開を年1回実施し懇談会等で話題にする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取組を充実させ、異学年交流の日常化を図る。1・6年の交流が日常化されつつあるので、他学年の交流も広がるように機会を増やす。KCSや学援隊などとの連携の強化も進めたい。 | ・児童の実態に沿って意図的、計画的に道徳科や人権教育を行った。特に人権教育推進校としての取組やその研究発表、パラリンピアンの方の講演会・車椅子体験等、児童の人権感覚を効果的に高めることができた。 ・たてわり活動を月に一度設定することにより、異学年交流が活発になった。学校生活の中でも異学年交流を積極的に取り入れた。 | B |
| 健やかな体 | ・体力向上一校1実践として行う長縄集会に向けて、全学級で意図的・計画的に取組み、体力の向上に励む。年間を通して「縄跳びの日」を休み時間に設定し、より計画的に取り組むことができるようにしていく。 ・けがを防止するために、日ごろの食生活や運動などの生活習慣を見直すことの大切さを伝える。 | ・「縄跳びの日」は、低学年を中心に多くの児童が参加する姿が見られた。長縄集会に向けて計画的な取組はあまり見られなかったため、「縄跳びの日」の定着と意図的な取組みができるよう、手立てを考えていきたい。 ・スポーツリズムトレーニングを通じて、体幹を強くし、継続することで生活リズムが整い、けがや病気を予防することを学んだ。 | B |
| 児童指導 | ・学校スタンダードを徹底し、さらなる定着を図る。 ・生活目標を「あいさつ」と「整えよう」に特化し、すすんで取り組もうとする意識を高める。 | ・学校スタンダードについて年度当初全職員で共通理解を図り、支援・指導の一本化を明確にした。その後も学年研や児童指導部会で検討し、改善を行った。 ・「いじめ基本方針」を改訂し研修や情報の共有化を行うことで、「いじめ」に対する教職員の意識を高め、児童指導専任や養護教諭との連携を密にし「いじめ」の発見と予防に努めた。 | B |
| 地域連携 | ・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度の実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動 ・校内環境美化支援活動・図書館支援活動 | ・地域の方々へのKCSへの認識も高まり、年間を見通して安定的に学校支援が行われた。専門的な知識や技能を生かした安全で、内容豊かな活動や授業が展開された。 ・学校支援活動に広がりが見られ、地域コーディネーターさんと直接連絡を取り合うことで支援までのタイムラグが減少した。 | B |
| 特別支援 | ・自閉症に関する理解を深め、安心・安全に学習できるように研修を行う。 ・自閉症児をとりまご二次的障害を日常の中で具体的にとりあげ周知をはかり、本校の児童全体に温かく接することができるように働きかけていきたい。 | ・自閉症研修を通して全職員で理解を深める努力が日々続けられている現状がある。 ・個別支援学級の児童を取り巻く交流級の児童の温かさは年々温度が上がり、よい傾向にある。一般級の日頃の学級指導と教職員一丸となつての温かい見守りと声かけにより、愛情に裏付けられた教育が行われている。 | B |
| 国際交流 | ・年間計画を立て、全校での交流を計画的に行っていく。 ・5年生からオーストラリアの児童とパディを組んで、相手意識を高めた交流にする。 | ・今後もYICAのカリキュラムとの統合性を図った年間計画に修正し、全学年での交流を意図的に進めるよう目指す。 ・朝会や交流の様子を知らせて資料を掲示したことで、国際交流を知り関心を高める機会となった。パディの取組により相手意識が高まったが、学年の偏りや取組の継承ができていない点が課題である。 | C |
| いじめへの対応 | ・年2回いじめのアンケートを行う。結果をふまえてすべての子どもと個人面談を行い、現状を把握する。 ・教師は、「いじめは絶対許さない」という姿勢を示すとともに、いじめ発生時は、チームで対応する。 | ・生活アンケート後の面談や聞き取り調査により、状況を把握し、大きな問題になる前に解決に至った。 ・自分の思いを言葉で話すことが苦手で暴力に発展したり、言葉が足りなくて問題に発展することがあり、グループやペアでの話し合いを多く取り入れ、コミュニケーション能力の育成を図った。 | B |
| 人材育成・組織運営 | | | |
| ブロック内相互評価後の気付き | ●小学校の道徳の授業を公開し、小学校の授業の様子を中学校の先生たちに見てもらうことで、「自分の考えをもち、学びあう子」のイメージを共有してきた。 ●運動会や学校保健委員会、職業体験などいろいろな場面で中学生とふれあう中で、進学の見通しをもったり、教職員同士の良好な関係を築いたりしてきた。 ●夏の研修会で、教科ごとに学習内容や身につけた力を確認した。9年間を見通したカリキュラムの作成ができていないので、指導要領の改定にもなった。計画的に作成していきたい。 | | |
| 学校関係者評価 | ・授業改善に向けて先生方全員で熱心に研修に取り組んでいることがよくわかった。 ・子どもたち一人一人の出番を、授業と行事などいろいろな場面でつづけているのはとてもよい。 ・たてわり活動によって、6年生が育っているだけでなく、子ども同士の関係もよくなっていると思われ。 ・KCSによって、保護者と地域と学校が連携できていて、学校が開かれていることがよくわかる。 ・職場でも小田小学校のことをほめてもらうことがあり、嬉しく思う。 | | |
| 学校経営中期取組目標振り返り | KCS(小田小学校地域コラボレーションシステム)が機能し始め、地域人材を日々の教育活動に生かすことができていく。教職員にも地域連携の大切さが意識化され、小田小学校が地域のランドマークとなりつつある。算数の重点研究会を中心に、授業改善が図られつつある。配慮を要する児童への理解が一層深まり、支援も年々充実してきている。 | | |

| 重点取組分野 | 平成30年度 | | 総括 |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 確かな学力 | 「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「自分の考えをもち 学び合う子」を設定し、授業改善を図る。重点研究では、算数科を取り上げ、自分の考えをもち表現したいと思える学習場面を設定する。考えを伝え合う中で課題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。 | ・重点研の研究主題である「自分の考えをもち 学び合う子」については、「自分の考えをもち」それを表現する力はついてきた。「学び合い」の中で、さらに思考力や表現力が高まっていくよう、学習場面や課題の設定を今後も工夫していきたい。 | B |
| 豊かな心 | ・子どもの実態をもとに、道徳の授業や人権教育を大切に、全学級道徳授業公開を年1回実施し懇談会等で話題にする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取組を充実させ、異学年交流の日常化を図る。KCSや学援隊などの地域の方々との交流し、感謝の気持ちももてるようにしたりする。 | ・人権週間では、今年度初めて「クラスの人権標語」づくりに取り組んだ。それぞれの発達段階に応じた課題や思いにそった言葉が並び、それをもとにした道徳授業や人権感覚の育成に臨むことができた。 ・たてわり活動は、インフルエンザの関係で、アート展見学や交歓給食が実施できなかったが、ペアでの活動が日常化できているので、日頃から声をかけ合うなど、中身のともなった交流ができている。 | B |
| 健やかな体 | ・体力向上一校1実践として行う長縄集会に向けて、「縄跳びの日」を活用することで全学級で意図的・計画的に取り組むことができるようにする。また、短縄の時間も設定し、取り組むことで体力の向上に励む。 ・安全で気持ちよく生活するために、清掃の方法や正しい清掃用具の使い方など、環境を整えることの大切さを伝える。 | ・長縄集会に向けて、学年で目標を設定し、学級・学年が一体となり活動に取り組むことができた。また「縄跳びの日」に関しては、縄跳び以外にも、体力向上のため、ボール投げにも取り組んだ。問題点も発見されたため、体力テスト結果の分析を基に、改善していきたい。 ・小中合同学校保健委員会の活動を活かしていくことで、清掃用具を正しく使えるようになってきた。また環境を整える意識も高まった。 | B |
| 児童指導 | ・学校スタンダードを徹底し、さらなる定着を図る。 ・生活目標を「あいさつ」と「整えよう」に特化し、すすんで取り組もうとする意識を高める。 | ・学校スタンダードについては、年度当初全職員で共通理解を図った。職員の入替わりのある中で、必要に応じて学年研や児童指導部で検討し、児童の実態に合わせた変更・改善を行ってきた。 ・あいさつ運動では、中学校と連携した「横浜子ども会議」での話し合いを生かし、「世界の国の言葉であいさつ」「あいさつおみくじ」を取り入れるなど、興味をもつ取り組みでいくよう工夫した。 | B |
| 地域連携 | ・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度の実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動 ・校内環境美化支援活動・図書館支援活動等の充実 ・年間計画とその活動実績をまとめ、次年度以降利用できるようにする。 | 学校運営協議会を中心に地域コーディネーターと共に、学校支援活動、校内環境美化支援など様々な場面で活動した。また、今年度から防犯の観点も含めて、あいさつ運動も始まり、地域と共に歩み、充実してきた。 | A |
| 特別支援 | ・特別支援教育講師として大谷珠美先生を迎えて一人ひとりが輝く学級づくり～特別支援教育の視点で～授業のユニバーサルデザインの研修会を行った。 ・自閉症スペクトラムの傾向やいろいろな特性をもつ児童を受け入れるための温かな学級指導や環境作りにも目を向けることが自然にできてきた。 | ・豊田小学校校長 瀬尾芳保先生を講師として迎えて行った自閉症については実践的な研修になりよかった。 ・障害を理由とする差別の解消の推進に取り組む、人格を尊重し、合理的な配慮をしていこうと進めてきつつある。 | B |
| 国際交流 | ・YICAのカリキュラムと統合性を図った年間計画を立て、高学年からオーストラリアの児童とのパディを中心とした交流を行う。 ・全校児童が姉妹校への相手意識をもつことができるような活動を取り入れ、実施する。 | ・YICAのカリキュラムとの統合性を図った年間計画を立て、高学年からオーストラリアの児童とのパディを中心とした交流を行う。 ・全校児童が姉妹校への相手意識をもつことができるような活動を取り入れ、実施する。 ・全校でめいぐるみ交流に取り組んだことでオーストラリアという国や文化への興味関心、相手意識が高まり、交流活動や学習への意欲につながった。 | A |
| いじめへの対応 | ・年2回いじめのアンケートを行う。結果をふまえてすべての子どもと個人面談を行い、現状を把握する。 ・いじめ防止基本方針改訂にともない教職員は「いじめは絶対許さない」という姿勢を示すとともに、いじめ発生時は、チームで対応する。 | ・いじめ防止対策委員会を毎月開催し、いじめに対する対応はもちろん、未然防止に向けての情報交換を密に行った。認知件数が昨年度より多くなったのは、年2回の全体会に加え、職員研修も行うことで、いじめに対する感度を高め、見過ごさず、見過さず、小さなことでもひろっていくという全校をあげた取り組みを進めた結果である。 | A |
| 人材育成・組織運営 | | | |
| ブロック内相互評価後の気付き | ●中学校の3教科の授業の公開に際し、指導案検討会や事後研修会に参加したり、中学校の先生方との研修会をもつたりして、「自分の考えをもち、学びあう子」のイメージを共有してきた。 ●運動会や学校保健委員会、職業体験などいろいろな場面で中学生とふれあう中で、進学の見通しをもつたり、教職員同士の良好な関係を築いたりしてきた。 ●9年間を見通したカリキュラムの作成は、導要領の改定にもなって計画的に作成していきたい。 | | |
| 学校関係者評価 | ・いつ訪れても明るく活気に満ちあふれている。先生方子ども達への接し方、話し方が丁寧で愛情を感じる。保護者、地域とも連携がとれているので安心していられる。 ・今年度から学校運営協議会が変わって、幅広い方の意見が聞けてよかった。年度初めに、中期学校経営方針や今年度の重点項目を分かりやすく明示してもらえたとありがたい。 ・たてわりでの異学年交流や、学校スタンダードの指導など、落ち着いた学校生活を送るための地道な手立てがとられているのがよい。 | | |
| 学校経営中期取組目標振り返り | 今年度立ち上げた学校運営協議会も軌道に乗り始め、地域の方々からの学校への見方や思いを学校経営に反映させていく土台となった。KCSの活動も充実し、地域と共に歩んでいく姿勢ができた。国際交流は全児童が取り組むことで、相手意識が高まった。この成果を次年度も継続させたい。 | | |